国語総合　学習指導案

日時　平成十八年十二月十四日(木)第五時限目
学級　一年二組(男子十九名　女子二十一名　計四十名)
教材　新編　国語総合(大修館書店)
授業者　下　萩　正

一　単元名　　論理をはぐくむ　「水の東西」　山崎　正和

二　単元の目標
(1)　すぐれた評論文を読むことで、視野を広め知識を豊富にさせる。
(2)　筆者がどのような視点に立って物を見、どのような角度から論じているかを読み取り、物の見方や考え方の多様性に気づかせる。
(3)　どのような論理的筋道で論者の主張がなされているかを読み取り、生徒自らが論理的思考を鍛え、自らの主張を形作る契機とする。
(4)　発展的に関連の調べ学習に結びつける。

三　単元の計画(一時限目～四時限目)
山崎正和の「水の東西」の授業を行い、五限目～七限目は「水の東西」の発展学習を行う。
(五時限目)
「水の東西」で学んだことをもとに「東西文化の比較」を行うことを理解する。他の比較できる文化をあげ、六班に別れて調べ学習の準備をする。
(六時限目)
各班ごとに各人が調べてきたことを発表し、班としての意見をまとめ、まとまった各班の調査結果を広幅用紙に清書する。
(七時限目)
各班の調査結果を発表し、「東西文化」の特徴をさぐる。

四　生徒の実態
全体的に学習意欲に乏しく、発言を求めても自信を持って発表することをしない。スポーツ・文化面ともに課外活動に於いては県大会等で優秀な成績を挙げる者もいるだけに、学習に対する取り組みの意識変革が必要と感じている。

五　本時の実際(七時限目)
本時の教材　「水の東西」をまとめた広幅用紙と各班の調査した東西文化比較の資料。
本時の目標　「水の東西」の発展学習として東西文化比較を行い、その特徴を確認することによりそれがどうして形成されたのかその原因を予測するとともに、調べた結果を発表する。

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入	五分	本時の学習目標について説明を聞く。	本時の学習に繋がるように広幅用紙にまとめて確認する。
展開	四十分	一「水の東西」で学んだことを整理確認する。 二　六グループの発表を前半・後半	・前もって広幅用紙にまとめておく。 ・発表に際しては大きな声・堂々とした態度で聞き手にわかりやすく説明

		に分けて発表する。（その際①～④にふれる。） ①何について調べたか。 ②どのような資料に当たったか。 ③調査の結果はどうであったか。 ④予測に対してどうであったか。 三　前三班・後三班の発表が終わった時点で班毎に評価を行う。 四　七つの（東西）の特色を指摘し、その中から共通点を探し出し、発表する。 五　気候・風土に影響されて民族があり、歴史や文化が発展してきたことを理解する。	・言い足りないところは指導者の方で適宜補足説明を加える。 ・評価に際しては、お互い話しやすいように机の移動を行い、司会役が議事を進行する。 ・評価の観点については事前に評価表を渡して指導しておく。 ・我々は他の民族の依ってきた文化や習慣をお互いに理解しながら生活していくことがこれからの国際社会を生き抜く知恵であることに気づかせる。 ・最後のまとめは指導者の方で行う。
終末	五分	六　本時の学習目標が達成出来たか確認する。 ・次時の学習内容を確認する。	・二～三名の生徒に本時の内容が理解できたかどうか問いかける。 ・次時は小論文の学習を行う旨確認する。

六　評価の観点

(1)内容を理解するために、積極的に授業に参加している。（関心・意欲・態度）

(2)大きな声・堂々とした態度で聞き手にわかりやすく発表することができる。（話す能力）

(3)東西文化に対して理解を深めることができる。（知識・理解）